

定員管理適正化計画 (第 3 次)

平成 1 7 年度 ～ 平成 2 1 年度

平成 1 6 年 7 月

喜 界 町

喜界町定員管理適正化計画

1. これまでの定員管理の状況

これまでの定員管理の実施状況

(各年4月1日現在の職員数)

部 門	区 分	計 画 期 間					達成状況
		12	13	14	15	16	計画－実績
一般行政部門	計 画	154	118	116	116	115	5
	実 績	155	111	113	113	110	
特別行政部門	計 画	41	40	38	35	34	△ 2
	実 績	41	39	35	37	36	
公営事業等	計 画	25	60	60	60	58	△ 5
	実 績	25	65	64	63	63	
合 計	計 画	220	218	214	211	207	△ 2
	実 績	221	215	212	213	209	
	達成数	△ 1	3	2	△ 2	△ 2	
定員モデル超過数		0	11	13	14	10	

○ 過去の定員適正化計画の具体的内容及び達成状況

一般行政部門は計画よりも5名減員できたが、公営事業部門は介護保険の新たな行政需用が発生したため5名増となり、合計で2名の増となった。

2. 定員管理の現状分析及び課題

部 門	超 過 理 由	今後の定員適正化計画における課題
農 業	農業は本町の基幹産業であり、営農指導等に職員を重点配置している	営農関係の職員の合理化は、難しいが事務系の職員は少数精鋭主義ですすめる
教 育	小中学校が12校と多い 幼稚園が7校と多い	小学校等は地域文化のよりどころであり、地域住民の了解を得るのが課題である

・定員管理診断表(資料)により、類似団体との比較分析を行った。

一島一町で外海離島の特異な条件下にあり、ゴミ処理や火葬場等自己完結をしなければならず、類似団体よりは職員数が増加する傾向にあるが、行財政の厳しい中であり、退職補充を必要最小限に留め少数精鋭主義に徹した行政運営を行い定員削減を図っていく。

3. 今後の定員管理のあり方

(1) 定員管理適正化計画の基本的考え方

① 定員適正化目標(目標とする職員数)

平成17年度から平成21年度までの5ケ年間で一般行政職11名減、特別行政職10名減、公営事業等8名の減で、計29名の減員を図る。

平成16年4月現在209名の職員が平成21年4月には180名となる見込みである。

定員適正化計画 集計表

部 門	区 分	参 考	計 画 期 間					
		16	17	18	19	20	21	計
一般行政	職員数 A	110	110	109	107	104	99	99
	対前年増減数		0	△1	△2	△3	△5	△11
	定員モデル超過数	10	10	9	7	1	△7	△7
特別行政	職員数 D	36	35	35	34	29	26	26
	対前年増減数		△1	0	△1	△5	△3	△10
公営事業等	職員数 E	63	61	61	61	58	55	55
	対前年増減数		△2	0	0	△3	△3	△8
合 計	職員数 A+D+E	209	206	205	202	191	180	180
	対前年増減数		△3	△1	△3	△11	△11	△29

② 主な定員適正化手法の概要

特別養護老人ホームの介護師、給食センター等の調理員、学校用務員等の退職補充はパート職員で対応していく。 又、各種施設の民間委託についても検討していく。

事務部門については、組織機構の見直しや事務改善等を行い、退職者補充を必要最小限に留め、新たな行政需用については、現職員の流用により対応することとする。